

千頭清臣 ちかみ 論理學者、官僚。安政三年十一月八日上佐國生れ、大正五年九月九日歿（一八五六一一九一六）。初名徳馬。號白新。藩の貢進生として上京、東京大學文學院を卒業へ、明治十九年イギリスに留學。當時『論理指鑑』（卷之一・明治十八年八月二十日、卷之二・十九年一月、卷之三・二十年三月澤屋藏版）、『論理學』（卷之一「名辭及比命題」明治二十二年十一月十日敬業社）等々著はし、千頭の論理學を稱せられた程の權威者であつた。歸朝後、造士館教授、高知中學校校長、第一高等學校教授等々務め、また東京文學院でも經濟學や英語を教へた。殊に英語に長じ、『ロジヤパンター』紙に執筆した英文記事は、外國人間の評價が高く、日常の手紙や日記なども英文で綴り、寧ろ邦文より巧みであつたといふ。

その後内務省書記官となり、栃木、宮城、新潟、鹿児島諸縣の知事と歴任。また加藤高明の後を承けて東京日日新聞社長に就任、四十年には貴族院議員、更に錦鷄閣祇候に任ぜられた。晩年東京麴町に閑居し、著述に従事。『瓊克拉的』（明治二十六年七月二日博文館）、『東洋人言行録』（川田正哉・大町桂月共編、大正二年六月二十日博文館）、『内途筆譚』（大正二年七月一日嵩山房）、『奈翁と其元帥』（大正三年八月十三日博文館）『偉人傳叢書』（等の著書がある。

